令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　西脇こども園　　）

		評価内容
1	教育課程の編成	西脇市就学前教育・保育カリキュラム及び、こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、園の実態に応じた教育課程を編成している。
2	教育・保育内容	園児数が多いことに加え、限られた空間の中で、工夫を重ねながら保育がなされている。動線や時間の配分等をさらに考慮することで、改善の兆しが見える。コーナーの設置等で、園児が遊び込める環境が少しずつ増え始めており、さらに充実していくと考えられる。幅広い体験も提供されており、園児が豊かな生活を過ごせるように考えられている。人間関係の育ちを大事にしながら、友達と関わって遊ぶ機会は多く設けられている。さらに、じっくりと一つのことに取り組める環境を整えることで、５歳児になった時に協同して一つのことに取り組む体験、何かについて深く探究する体験等を積み重ねていくことが期待できる。そのように環境を意識することで、乳児についても遊びが深まり、より質の向上が期待できる。保育者一人一人の意識は高く、職員間の同僚性を育むことで、今後のさらなる発展が見込まれる。
3	安全管理・防災教育	安全点検は毎月、担当者が点検表をもとに全園舎・遊具で行い、管理職が確認し対応や改善を行っている。避難訓練については月１回、事前にねらいや職員の役割分担の確認を行うとともに、様々な時間帯を想定して取り組んでいる。
4	家庭・地域との連携	休日・病児・延長保育などに対応し、園児のみならず在宅児の子育て支援の充実も心がけている。よいこネットや行事を通して、園児の様子や保育の意図を伝えるとともに、毎月の献立やクラス単位で保育について発信している。

5	職員の資質の向上	保育者間で保育内容や園児の様子などエピソードを交えながら意見を交換し、保育の改善に取り組んでいる。 園内研修で保育について話し合いをしたり、職員で意見交換や振り返りの時間を作ったりできるように努力している。
6	特別支援教育	個別課題をもつ園児の情報を職員間で共有する場を設定し、実態把握に努めている。発達特性や障害等の実態把握と理解を図り、関係機関への相談や保護者を介して療育機関での指導時に見学を行うなどの機会に同席するよう努めている。
7	保幼小の連携	小学校からの情報収集に積極的に取り組むとともに、園児の小学校行事の見学、参加等も、機会をとらえて的確に実施している。園児の進学先は多岐に及ぶが、進学人数が少ない小学校での体験入学にも担任が必ず付き添い、園児や保護者の不安を払しょくできるような配慮ができている。
8	関係者評価の 取り組み	講師の方からの評価や助言を保育に活かし、課題に向けて取り組めるようにしている。

令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　比延こども園　）

		評価内容
1	教育課程の編成	こども園の保育理念や保育目標、西脇市の年間カリキュラムに基づき、教育・保育を進めている。学年ごとに、年間計画や月・週指導計画をたて、より具体的に取組を進めていけるようにしている。月案や週案を園長・主任が丁寧に確認し、コメントを記入して返却するとともに、プラスの評価を心がけている。
2	教育・保育内容	クラスによって室内の広さに違いがあっても、各年齢に合わせた園児の安全や動線を考え、月齢によってスペースを区切ったり、目的によって区分けしたりする等の工夫をしている。手作りのおもちゃが多くあり、手作りの温かみを感じる環境を作っているとともに、園児にその作成プロセスを見せて、おもちゃを大切にする心を育てる工夫を行っている。園児の意欲につながる保育の工夫を行っており、保育者が園児の思いを汲み取ってそこに言葉を添えたり、園児の言葉に耳を傾けたりすることで、伝える喜びが味わえるような保育を行っている。豊かな自然との触れ合いがあり、そこに携わる地域の人との交流もあり、自然の中における探索活動や様々な体験ができる工夫を行っている。
3	安全管理・防災教育	月１回の安全点検や、消防署・警察署と連携した避難訓練、交通安全教室等を計画的に実施し、園児の安全確保と職員の意識向上に努めている。遊具等は、月１回の職員による点検とともに、業者による点検も行っている。
4	家庭・地域との連携	保護者には、日々様々な情報提供とともに、行事毎に取組や園児の様子を便りで伝えたり、子育て相談や個人面談の機会を設けたりしている。民生児童委員や教育委員会、こども福祉課と連携し、情報提供・情報交換に努めている。

5	職員の資質の向上	幼稚園への見学研修の実施や、他の研修会に積極的に参加できる職員配置を行っている。月１回、研修報告の時間を設定し、研修会で学んだことを報告・共有している。職員は若い世代も多いので、園全体で育てることを心がけたり、職員の特技を生かしたりすることで、自己有用感を高めている。行事での役割分担を明確にし、責任をもって保育に取り組む機会を作っている。
6	特別支援教育	発達相談や巡回相談、専門医の紹介等、園児の実態把握と保護者支援に努めている。支援の必要な園児の状況について、定期的に情報交換を行い、情報を共有することで、園全体で見守る体制を作るようにしている。
7	保幼小の連携	中学校区連携委員会に積極的に参加し、進学先の小学校との連絡を密にすることで、情報共有に取り組んでいる。園児も機会をとらえて小学校の行事などに出向き、小学校の生活を体感している。園では、５歳児が自分たちで遊びのルールを作るなど、自らの生活をより良いものにしていこうとする取組も行われている。
8	関係者評価の取り組み	各行事毎に保護者アンケートを実施し、改善に活かすようにしている。また、全職員が目を通し共通理解を図っている。園評価については、評価シートを作成し理事会で公表している。

令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　どれみこども園　）

		評価内容
1	教育課程の編成	本園の理念、保育方針・目標と西脇市内で統一した就学前教育・保育カリキュラムとのバランスを考えながら、新しい取り組みを増やしたり今までの取組をなくしたりして、計画を立てている。
2	教育・保育内容	整えられた環境の中で、落ち着いた保育が行われている。特に５歳児の活動は、小学校を見据え、園児が考えて行うものが少しずつ増えてきている。協同して何かを作り上げたり、試行錯誤したりすることで遊びの中の問題解決をしていこうとする試みが見られる。全体としては、集団生活を通して、身の回りのことや友達と関わって遊ぶことができるようになっている。乳児（0.1.2歳児）クラスでは、動線を考慮した環境の整備に努力がなされている。今後は、保育内容の一層の見直しと、おもちゃの配置やコーナーの整備等によって、遊びがより深まるように努力することが期待される。また、これまでの保育目標を資質能力ベースで見直すことで、より効果的に質の改善を図ることができると考えられる。そのため、一人一人の園児に応じたねらいを設定する等、研修を通して工夫を重ねることでより質の向上が期待できる。
3	安全管理・防災教育	月ごとの点検とともに、何か異常があれば主幹を通して園長に報告し処置できる体制をとっている。避難訓練は年間の計画を立て、さまざまな状況に応じて実施している。電話、内線が使えない状況を想定して訓練も行っている。
4	家庭・地域との連携	乳児の担任には子育て経験者やベテランの職員を配置し、保護者の子育ての不安にも気軽に相談できるようにしている。相談内容が担任だけで抱えきれない場合は、主幹等が対応している。

5	職員の資質の向上	体育、音楽、絵画等園児と一緒に専門の講師の教室に教師も参加、指導を受けることで、専門性を磨いている。また、それを普段の保育にも取り入れている。キャリアアップ研修等の研修会を受講した際は、職員会議で報告をしている。
6	特別支援教育	個別課題をもつ園児の発達相談等に担任や担当職員が同席し、実態把握するとともに、支援方法について確認し、実践している。また、その取組について、職員会議で情報共有し、共通理解を図っている。園での支援方法状況を保護者に伝え家庭での協力体制も整えている。
7	保幼小の連携	日頃から集団としての行動や活動を積極的に取り入れ、協力することや助け合うことの大切さを体験できるような取組を行っている。園児と児童の交流も取り入れ、小１プロブレムの解消にも努めている。
8	関係者評価の取り組み	他者からの評価は受けていないので、今後検討していく。

令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　日野こども園　）

		評価内容
1	教育課程の編成	西脇市の教育課程に沿って教育課程を作成している。カリキュラムや目標等、より教育・保育に生かしていけるように見直しをしながら毎年改善している。
2	教育・保育内容	各学年とも、それぞれの教育・保育内容の可視化や取り組みの意味づけを行い、質の向上に向けて意識的に取り組んでいる。前期実施状況の課題について、後期に向けてどのように改善を図っていくか検討され、保育の改善に努めている。後期実施状況には前期に比して向上した項目が複数見られる。乳児（0.1.2歳児）クラスでは、生活面の自立を土台にしながら、発達に応じて意欲的に遊びや活動に取り組めるように保育の進め方や保育環境に配慮している。幼児クラスでは、一人一人の思いを受け止めながら、人間関係の育ちを大事にして、園児が主体的に取り組めるように配慮している。園児の生活の流れがスムーズになるように環境整備なども意識して取り組んでいる。保育者一人一人の意識は高いので、研修を通して工夫を重ねることでさらなる発展が見込まれる。
3	安全管理・防災教育	月末に安全点検表を配布し、職員全員で確認を行い、安全管理を徹底している。不具合があれば業者に修理を依頼している。月に１回から２回、訓練を行うとともに、職員で評価を出し、次に活かしている。消防署第二避難場所の確認や訓練実施とともに、連携を図っている。
4	家庭・地域との連携	保育のねらいを園だよりで発信したり、保護者参加の行事で園長がこれまでの取組を伝えたりすることで、本園の保育・教育方針の理解を図っている。子育ての悩みや相談を聞いたり解決策を一緒に考えたり、保護者に寄り添いながら安心して子育てができるように支援している。

5	職員の資質の向上	積極的にキャリアアップ研修に参加し、職員会議で研修内容を報告、共通理解を図っている。日誌や月・週案の記入により、日々の保育の振り返りをしている。今年度は、園内研修も行い、他の職員の保育を見る機会を作っている。
6	特別支援教育	個別課題をもつ園児に関して、丁寧に個人記録を取ることにより実態把握に努め課題や支援方法を検討している。また、卒園後の支援連携に向けて、保護者にサポートファイル活用等の情報提供を行っている。月２回の打ち合わせ会を行い、情報共有の場を設け職員間の共通理解を図っている。
7	保幼小の連携	様々な行事をとおして、小学校との連携に努めている。５歳児では、振り返りや話し合い活動を取り入れて、園児が自分の思いを自分なりに表現する機会を設けて、小学校で重視される言語活動にも様々な機会を捉えて積極的に取り組んでいる。
8	関係者評価の取り組み	アンケートは行っていないが、保護者からの声があった場合にはその都度対応・検討を行っている。

令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　かすがこども園　　）

		評価内容
1	教育課程の編成	西脇市就学前教育・保育カリキュラム及び、こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、行事を含め園の教育・保育年間カリキュラムを作成している。また、本園のカリキュラムより、各年齢の成長発達に合わせた月案の「ねらい」や「内容」を作成している。
2	教育・保育内容	園全体として積極的に職員室前や各保育室のスペースを活用し、ドキュメンテーションによる保育の過程の可視化を行い実践の質の向上に向けて意識的に取り組んでいる。保育実践の課題を踏まえて改善点を検討し、後期に向けて取組が具体的に実行されるように保育の改善に努めている。その結果として、後期実施状況には前期に比して向上した項目が複数見られる。乳児（0.1.2歳児）クラスでは自分でやりたい気持ちや園児の言葉を大事に受け止め、遊びの内容や保育環境を工夫して発達に応じて取り組んでいけるように配慮している。幼児クラスでは、保育内容５領域のバランスを考えて、コーナー遊びや戸外遊びや設定保育において園児が主体的に取り組めるように配慮している。今後は、さらにじっくりと一つのことに取り組める環境づくりについて園全体の研修等に取り組むことで、さらなる発展が期待できる。
3	安全管理・防災教育	安全点検担当者が、園庭遊具の安全確認及び清掃を行い、問題点は改善し各職員の安全への共通理解を図っている。月１回の避難訓練では、役割分担・低年齢児への誘導補助等を確認したり反省を活かしたりして、臨機応変に行動している。
4	家庭・地域との連携	入園説明会や総会にて園方針や保育内容を説明し、各年齢の活動内容についてもネットやドキュメンテーションにて共通理解を図っている。小さなことでも話しやすい雰囲気を大切に、保護者の話に耳を傾けていく。必要であれば個人面談を行い、関連機関へも相談している。

5	職員の資質の向上	園内にて各リーダーを決め、専門性を高めていくと共に、全職員が西脇市内外の研修に個々に参加し、会議等で報告し共通理解できるようにしている。指導案の作成や園内研修も積極的に行っている。主体的に一日の教育・保育の振り返りをし、次へ活かせるよう努力している。
6	特別支援教育	専門機関や医療機関との連携、日々の関わりの中での成長発達の把握に努め、支援方法や環境設定に工夫している。保護者に対しては、個人面談を行うことで、支援の方向性の共通理解を図っている。月1回の職員会議での共通理解を図り、適宜職員間での相談報告を行っている。
7	保幼小の連携	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、職員間で、縦断的・横断的に共通理解を図り、保育にあたっている。また、機会を捉えて園児と小学生の交流を持ったり、小学校進学前には、１年生担任との情報交換会を持ったりして連携に務めている。
8	関係者評価の取り組み	公開保育での感想や講師の助言また幼児教育センターからの助言を真摯に受けとめ、課題を克服できるように努力している。

令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　つまこども園　）

		評価内容
1	教育課程の編成	毎月のカリキュラム検討委員会を行い、５領域・育てたい10の姿を具現化する方法について研鑽を行っている。総合的な取組を行うと共にドキュメンテーションから見える課題を次の教育・保育に活かせるようにしている。
2	教育・保育内容	各学年とも積極的にドキュメンテーションを活用し、教育・保育内容の可視化を行い、実践の質の向上に向けて意識的に取り組んでいる。前期実施状況の課題を踏まえて改善点を検討し、後期に向けて取組が具体的に実行されるように保育の改善に努めている。その結果として、後期実施状況には前期に比して向上した項目が複数見られる。乳児（0.1.2歳児）クラスでは、愛着形成を土台に、自分でやりたい気持ちを大事にしながら受け止め、発達に応じて意欲的に身近な環境や遊びに取り組めるように配慮している。幼児クラスでは、人間関係の育ちを大事にしながら、外遊びと室内の活動とのバランスを考えて、園児が主体的に取り組めるように配慮している。
3	安全管理・防災教育	安全点検表に基づいて、各担任や主幹保育教諭が毎月点検を実施し、園長に報告し、改善を行っている。避難訓練は、火災・地震・不審者への対応について担当者が計画した案を基に毎月実施している。役割分担もできている。地域との連携に関して検討を行っている。
4	家庭・地域との連携	保護者から子育てに関する相談等があれば、随時話を聞き、アドバイスをしている。特に気になる家庭においては、保護者と直接話し合う他、教育委員会等担当課とも連携し、園児の情報共有を図っている。毎朝の職員打合せの中で、園児の情報の共有化が図れるよう努めている。

5	職員の資質の向上	キャリアアップ研修等積極的に参加し、自身の保育の質の向上に努めるとともに資料を回覧、職員会議時に報告して発信している。計画的に園内研修を行うことで、全職員が５領域や『幼児期に育てたい１０の姿』の理解を深めていけるようにしている。毎年度自己評価を行うことで、保育の振り返り、次年度への課題を明確にし、保育の改善に努めている。
6	特別支援教育	職員会議等で園児への障害特性理解や具体的な支援方法の共通理解を図り、保育に活用できるようにしている。また、関係機関と情報共有し、保護者支援に努めている。保護者からの要請に応じて、各関係機関と連携をとったり、必要に応じて会議をもったりすることで、実態把握に努めている。
7	保幼小の連携	協同的な遊びを取り入れ、話し合いの時間を設定している。また、『幼児期に育てたい１０の姿』を意識した保育を進め小学校でのスタートプログラムの中核をなす生活科につながる保育も多く取り入れている。園児と小学生との交流は定期的に行われており、職員同士の情報交換についても、前向きに検討中である。
8	関係者評価の取り組み	運動会やオープン保育後に保護者アンケートが実施できるように、項目を検討している。集計後、結果を保護者に公表すると共に、次への方策を明確にしていく予定である。

令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　芳田こども園　　）

		評価内容
1	教育課程の編成	市内共通カリキュラムをもとに、日々の活動に取り組んでいる。カリキュラムについて全職員が理解を深められるように話し合う機会を設けたり、資料の配布に努めたりしている。
2	教育・保育内容	自由遊びの際、園児の遊びの動線を考えおもちゃを配置している。園児の発達をとらえてクラスの保育者間で共有し、保育教諭の園児への働きかけの工夫を行い園児の発達がより促されるようにしている。乳児（0.1.2歳児）クラスでは、保育者の愛情あふれる言葉かけや支援により、安心して自己を表出して過ごせている。幼児クラスでは、人とのかかわりに関するルールを理解できるような配慮や工夫をしており、園児一人一人にかかわる必要がある場面や見守る場面などを判断し、園児自らの思いを言葉で伝えたり表現できたりするようにしている。園児の発達段階における活動が十分に発揮できるよう、職員配置が配慮されており、保育者の個性を生かした保育が展開されている。
3	安全管理・防災教育	月１回の避難訓練や業者による説明を定期的に受けている。災害や防犯について考える機会や、職員全体が理解できるように研修の機会をつくっている。安全管理に関して、点検をこまめに行い、共通理解を図るために職員会議や登園時などを利用して伝え合うようにしている。
4	家庭・地域との連携	日々の園児の成長に共感し、十分に認めていけるよう全職員で心がけている。保護者の目が届くところに保育関係の掲示をしたり、保護者が集まる機会には、園の活動について理解が得られたりできるよう伝えている。

5	職員の資質の向上	行事後の振り返りや今後に向けて話し合いを行い、年度末に自己の保育だけでなく、職員がお互いの知識や意見を出し合い高め合えるように心がけている。研修内容を発信し、自ら実践した結果も兼ねて話し合うようにしたり、研修資料は全員が目を通したりしている。
6	特別支援教育	必要に応じて、療育機関や支援施設と連携し実態把握に努めている。さらに支援方法や対応について、園全体で考えるようにしている。職員間では、日常的に時間を見つけて情報共有をし、必要とあれば、話し合いの機会をもち共通理解を図っている。
7	保幼小の連携	園児と児童の交流は、頻繁に行われており、小学校からは１年生と５年生がこども園を訪問する交流も行われている。就学に向けて集団行動も多く取り入れ、協力することの大切さを体感させている。保育者と小学校教員の交流の機会についても、令和２年度に実施の方向で具体的に検討している。
8	関係者評価の取り組み	各行事や、日々の活動など、保護者や地域の思いを受け止め、よりよい内容になるよう心がけている。各行事について、保護者や地域の方々の参加を呼びかけたり、交流を深めたりするとともに、活動後には意見をいただいている。

令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　黒田庄こども園　）

		評価内容
1	教育課程の編成	西脇市共通カリキュラムの方針・目標に基づいて、園の教育課程を編成するとともにアプローチカリキュラムを作成し、町内の小学校へスタートカリキュラムの作成の参考になるよう発信している。
2	教育・保育内容	それぞれのクラスにおいて、保育環境を工夫しながら、園児が主体的に活動できるように工夫している。職員間の連携が円滑になされ、保育のねらいの共有や内容・方法の改善に役立っている。園児の理解に基づいたねらいの設定がなされており、自由に遊びを選べる環境においても、そこで培う資質能力が考慮されて組み立てられている。保育者の関わりは園児にとって安心できるものであり、穏やかに生活が送れるようになっている。１回目の訪問から２回目にかけても環境や方法の工夫がなされており、園内で改善に向かう力が備わっているといえる。一人一人の園児への対応についても、園庭の環境や自然との関わりについても、園内研修や資源の有効活用などを通して、今後一層の質の向上が期待できる。
3	安全管理・防災教育	月２回の遊具と保育室等の安全点検を実施し、不具合等があれば、すぐに連絡する体制を作っている。毎月避難訓練（火災・地震・山崩れ等）を実施している。消防署の協力を得た避難訓練、警察署の協力を得た訓練を行っている。
4	家庭・地域との連携	玄関掲示やたより・よい子ネット・ＨＰ等を活用し、情報発信や保護者啓発を行っている。保護者との対話・見える関係を大切に、支援について一緒に考えている。担任だけで対応できないことに対しては、園長や主幹教諭等複数で対応し、関係機関との連携を密にしている。

5	職員の資質の向上	１００の自己チェックリストを学期ごとに行いながら、次につながる取り組みを続けている。自己チェック・各クラスや園全体の評価を行い、ＰＤＣＡサイクルを大切にした教育・保育に努めている。土・日の研修に積極的に参加し、園の教育・保育に還元し、より実のある保育が進めていけるよう計画的に行っている。
6	特別支援教育	常に、市の関係機関・療育等の専門機関と連携をとり、保護者支援をしている。発達相談や発達支援会議にも担任が可能なかぎり同席することで、園児の実態把握に努めている。保護者とともに特性理解をすすめていくことで支援策に取り組んでいる。月1回の会議を中心に、必要に応じて随時、職員間で情報共有している。
7	保幼小の連携	ホワイトボードに１日の予定を書いたり日直の名札を貼ったりする等、小学校を意識した保育の環境作りができている。はさみの使い方なども系統的に指導できており、園児に定着している。試行錯誤する場面を意識的に設定し、園児が様々な考えを出し合える場ができている。
8	関係者評価の取り組み	保護者アンケートや他者の評価等を積極的に取り入れ、園から情報発信をしている。保護者のニーズに応えながらも、園の方向性や重要事項も発信している。

令和元年度西脇市就学前教育・保育質の向上推進委員会　報告書

園名（　しばざくら幼稚園　　）

		評価内容
1	教育課程の編成	本園の教育目標を達成するため、各学年の年間指導計画を期ごとに作成するとともに月・週・日案とより具体的な保育計画を立てている。週案、日案に支援が必要な園児に対する支援方法・配慮事項等を明記することで現時点での課題や状況を明確化している。
2	教育・保育内容	幼児の発言や行動を予測しながら、前日までに保育の準備を行っている。その際、クラス内にとどまらず、職員室を巻き込むなど、様々な人の力を借りて解決することの大切さを理解できるような工夫も行っている。園児が一日の行動や予定に対する予測が立てられるよう、ホワイトボードや手作りの時計を利用したり、欠席児に対しても前日までの保育の流れが理解できるよう掲示物を工夫・活用している。クラス全体の場での発言の際、幼児の発する言葉を保育者が拾い上げ、意見を尊重する態度を示したり、少人数で考えさせて園児同士で意見をまとめたり、まとまった意見を発言させる場を作っている。年齢によっては２クラスあるところでも、保育者同士が連携をはかり、保育者の経験年数によって差ができない工夫を行っている。
3	安全管理・防災教育	毎月、固定遊具・施設等、チェックシートを用いて安全点検をし、園児の安全を考え改善が必要な場合は市教委へ早急に要望している。火事・地震・不審者等を想定した避難訓練を月１回実施し反省、マニュアルの見直しを行っている。
4	家庭・地域との連携	通信・ドキュメンテーション等で、園児の様子や教育活動を知らせ、本園の教育の理解を得るよう努めている。家庭訪問や、年２回の懇談会で、家庭の状況把握や、園児の発達の共通理解を行っている。何でも話しやすい雰囲気作りをするとともに、園からの発信だけでなく保護者の声を返せるように意見用紙をつけている。年２回程度、子育てに関する講演会も行っている。

5	職員の資質の向上	担任は保育の振り返りを行うとともに、介助員と園児の適切な支援方法について共通理解を図り、保育の改善に努めている。必要に応じて学年単位での振り返りを行い、遊びの展開について次の保育の見通しを立てている。専門性の向上のため、自分に必要と思われる研修については、積極的に参加できるように職員間で協力している。学んだことを口頭や紙で他の職員にも伝えるようにしている。
6	特別支援教育	日々の観察や関わり方を担当職員間で共有することで実態把握に努めている。さらに学期ごとに個別の支援計画を立て、ニーズに応じた指導に取り組んでいる。必要に応じて、関係機関や専門家と連携して支援方法を検討している。登降園時の保護者との会話を重視し、保育終了時間後には職員間で園児について情報共有・理解を深めている。
7	保幼小の連携	幼稚園として５歳児を専門的に教育し、小学校へつなぐというこれまでの取組のノウハウが定着している。中学校区連携にも参画し、職員間の情報共有を行っている。機会を捉えて園児と小学生の交流を行い、園児に就学の不安を感じさせないようにしている。
8	関係者評価の取り組み	学期ごとの保護者アンケート、評議員の設置（年４回の評議員会）、普段の保育参観等を通して保護者から意見を聞き、改善につなげている。保護者アンケートは紙面で保護者に報告し、要望・質問に丁寧に答えている。